

女子学生による女子中学生向け広報活動への取り組み

乙部 由美子・中島 レイ・井上 祐一

Projects to Public Relations for female junior high school students by Nit[♡]Kit girls

Yumiko OTOBE, Ray NAKASHIMA, Yuichi INOUE

Abstract

Several interested female students formed a group as Nit[♡]Kit girls for public relations to a junior high school student and for their own improvement of the career 4 years ago. They are doing public relations so that female junior high school students may have an interest in entrance to a National Institute of Technology, Kitakyushu College. In this paper, the projects they carried out are reported.

Key words: female students, public relations, female junior high school students

1. はじめに

男女共同参画推進の取り組みの一つとして、女子学生の増加を目指すことを挙げている我校では、女子学生による女子中学生向け企画の開催に積極的に取り組んでいる。

この取り組みに女子高専生が中心となって関わることになった発端は平成 24 年度から着手したオープンキャンパス（以下 OC）での女子中学生向けイベントにおける協力女子学生の存在だった。平成 24 年度は女子高専生の日常生活を切り取った写真をスライドで紹介しながら、女子中学生の質問に答える質問コーナーを設けた。準備への取り組みが遅かったこともあり当日の来室者は 2, 3 組にとどまったが、そういう状況の中でも女子学生は急ごしらえのチラシを持って会場内を案内宣伝して走り回ってくれた。平成 25 年度は準備にもしっかりと時間をかけて、電子回路作りと Egg art を合体させた北九州高専オリジナル LED Egg Art 作りのコーナーを女子中学生限定で企画した。協力女子学生もたくさん募り、予備練習も重ね、2 日間に渡り行ったこのコーナーにはたくさんの女子中学生が参加してくれて、大盛況であった。そして、それ以降も引き続きの活動を円滑に行うために、また、主幹校としての高専女子フォーラムの開催を 2 年後に控えて準備開始のために、平成 25 年度の終わりにそれまでの協力女子学生を中心に女子学生有志の会を立ち上げることとなった。

当初「KCT ガールズ」と名付けたグループ名は平成 27 年度の学校名略称の変更に伴い、「Nit[♡]Kit ガールズ」と改め、OC や公開講座での活動を始め、女子中学生向けの広報誌の編集など学生目線での広報活動や女子学生自身のキャリアアップにつながるような活動にも取り組んでいる。表 1 に今年度のメンバーの構成人数を記す。指導体制として、日常の指導は筆者ら 3 名が行っているが、今年度より男女共同参画推進会議による所掌となり、活動のための予算措置もされ、正式に学校の行事を担う組織として活動をするようになった。

本稿では、平成 25 年度から活動を行ってきた Nit[♡]Kit ガールズの取り組みの中で、特に女子中学生に向けた広報活動を中心に報告をする。

表 1 構成メンバー

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	専 1	専 2	計
H29	3	1	6	0	6	0	0	16

2. 女子中学生に向けた広報活動の実践例

女子の受検生を増やすことを目標に、はつらつと楽しい女子高専生の生活や高度な学習や研究に取り組む姿を知ってもらうことを心がけ、学校内外で様々な活動に取り組んでいる。年度ごとの取り組みは表 2 の通りである。

以下に、それぞれの活動内容とそれに関するアンケートの結果をあわせて紹介する。

表 2 年度ごとの取り組み

年度	取り組み
H25 年度	高専女子百科 Jr. ・ 秋の OC
H26 年度	新入生オリエンテーション・高専女子百科 Jr. ・ 公開講座・夏の OC・秋の OC
H27 年度	新入生オリエンテーション・高専女子百科 Jr. ・ 公開講座・夏の OC・秋の OC ・ 高専女子フォーラム in 九州沖縄
H28 年度	新入生オリエンテーション・まるわかり帳・ 公開講座・OG 講演会・夏の OC・秋の OC ・ 高専女子フォーラム in 関西
H29 年度	新入生オリエンテーション・出前授業 公開講座・OG 講演会・夏の OC・秋の OC・高専祭

2.1 夏のオープンキャンパス

「いちにち高専生」というコンセプトで行われる夏の OC では、模擬授業の形態をとり 20 種類以上ある模擬授業の中から中学生が受けてみたい授業を 3 つ選んで参加する。この模擬授業と並行して「女子高専生による学校・コース紹介と相談コーナー」と題して、女子学生目線の学校・コース紹介と懇談形式の質問コーナーを開いている。

前半は女子学生自身が作ったパワーポイントで、それぞれが自分たちの言葉で説明を加え、自分たちのコースを紹介する。パワーポイントには「Q&A」と題して、女子中学

生の多くが疑問に思っていることへの解説も盛り込んでいく。多くの中学生を前にすると、1 年生では緊張して原稿を読むだけなのに対して、2 年 3 年と学年が進むにつれ、説明も上手くなり聴衆に話しかけるように説明できるようになる。その成長具合を見て頂けるのも、良い宣伝になっていると思われる。

後半の相談コーナーでは女子高専生が参加中学生の間に入って行き、フレンドリーな雰囲気を作り、できるだけ相談しやすい場作りを心がけている(図 1)。保護者からも学校の入試相談コーナーとは違った質問が出ていると感じる。

例年 30 名程度の中学生の参加があるが、参加した中学生や保護者からは、「様々な質問に丁寧に答えてもらって、不安が解消されて良かった。」「楽しそうないい雰囲気です。今まで以上に高専に行きたいと思います。」などの感想が寄せられている。

このコーナーに来て何が良かったかの質問には「高専の女子学生の様子がわかった」という答えが毎年一番多くあり、他の説明会や情報誌では得られない貴重な情報提供の場になっていることが分かる(図 2)。



図 1 相談コーナーの様子

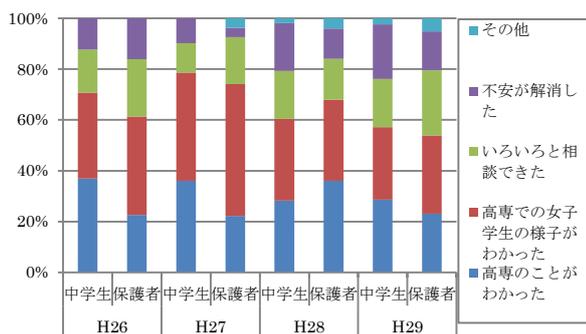


図 2 OC を受けてどういところが良かったですか？

2.2 秋のオープンキャンパス

「たいけん高専生」というコンセプトで行われる秋の OC では、学校中に 50 近くの実験コーナーが開設され、中学生はそれらを自由に見学して回る。ここでは、女子中学生を対象に「女子高専生とものづくりをしながら、お話ししましょう」というコーナーを開いている。平成 25 年度か

ら LED Egg Art, お花のキャンドル, 折り紙, 発泡入浴剤, プリントフラワーなど、高専らしいもので、なおかつ作るのに難し過ぎず簡単すぎないものを選び、作りながらの会話を大切にするように意識して取り組んでいる(図 3, 4)。

平成 25 年度の LED Egg Art は初めての取り組みで中学生の技量も参加者数も予想できない中で、協力女子学生 20 人で臨み、女子中学生の参加は 2 日間で 24 名と 22 名であった。大盛況であった反面、LED 基板のはんだ付けに時間がかかり過ぎ、他の見学コーナーを回る時間がなくなるという迷惑な結果となり、この LED Egg Art は次の年度からは公開講座での取り組みに移行することとなった。そして、平成 26 年度からの OC では、より気軽に参加できるようなものづくりを続けており、例年約 40 名の中学生とその半数近い保護者の参加がある。

単なる相談コーナーでは敷居が高かったり、話しにくかったりすると、まずはものづくりを一緒にしながら打ち解けていき、次第に話しやすい雰囲気になっていく様子が見受けられる。また、女子中学生がものづくりをしている横で保護者が上級生や教員と話を弾ませていることもある。

中学生からは「とても丁寧に作り方を教えてもらって、すごく嬉しかったです。学校の様子もわかって良かったです。」「女子目線でのアドバイスをして頂きました。」「いろいろなお話をうかがえて、参考になりました。」「生の



図 3 いろいろな学年の在校生と



図 4 H26, 27, 28, 29 年度のものづくり作品

声が聞けてためになりました。」などの感想が寄せられている。図 5 のアンケート結果からも、参加動機として女子学生と直接交流できることへの期待が半数近く見受けられる。

また、参加女子学生の一人は「女性で技術者というあまり結びつかないと思う人が多いと思うが、私たち現役女子高専生の力で女性でも立派な技術者になれるということをわかってもらいたいと思う。」との意気込みを聞かせてくれた。

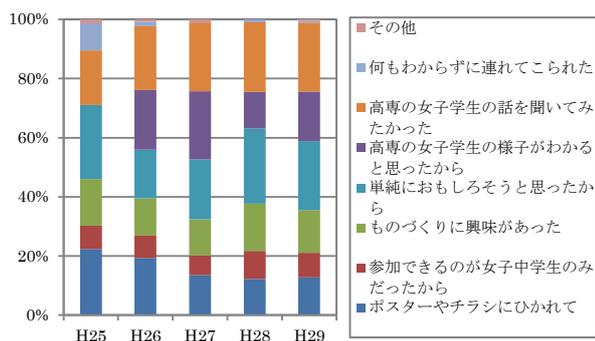


図 5 このコーナーに参加しようと思った理由は？

2.3 公開講座

北九州高専では毎年 10 数種類の公開講座を開いて、地域の小中学生などに理工学やものづくりに親しむ場を提供している。Nit \heartsuit Kit ガールズも平成 26 年度から毎年夏休みに女子中学生限定のものづくり体験講座を開催している。

午前には白衣を着てガラス器具を扱い色素を分離するという化学系の実験をしてもらう(図 6)。後半にははんだごてを使って LED 回路を製作し(図 7)、さらに Egg Art や折り紙や和紙のドームなどのランプシェードを手作りして、できあがった LED ランプを持って帰ってもらっている。20 名の定員にそれ以上の応募があるときもあり、Nit \heartsuit Kit ガールズが 1 人で 1, 2 名の中学生を担当して実験や製作にあたっている。

化学系の実験では下級生や化学以外のメンバーでは十分に対応できないこともあり、メンバー外の化学の上級生に手伝ってもらい、専門的な指導を助けてもらっている。それでも事前に教えてもらいながら一通りの手順を予習はしておき、当日のサポートはできるようにしている。LED 回路の製作でも事前に学生達で練習をして回路製作の手順をマスターしておく。ランプシェードも事前に作ってみて、作り方や材料の選定などを詰めていき、出来上がり時間を確認しておく。

一日かけて、色々な分野のものづくりを経験してもらえようようなプログラムになっているうえ、時間がしっかりあるので中学生同士も高専生ともじっくり話ができて、短時間の OC では見えないところまで、見てもらえる取り組みになっているようである。

アンケートでは、公開講座を受けて高専の印象が以前よりよくなったとの回答が毎年 8 割近くあり、女子の受検生増加に貢献できているのではないかと思っている(図 8)。「具体的にどのような点の印象が変わったか」の問いに対する回答からいくつかを以下で紹介する。

- ・硬いイメージだったが楽しそう。
- ・皆が明るく、仲がいい。楽しい雰囲気。
- ・思っていた以上に楽しく、新しい経験がたくさんできるところだとの印象が変わった。
- ・たくさんの将来の選択肢があることが分った。
- ・先輩と後輩の交流が楽しそうに見える。
- ・先生と学生の距離が近くていいと思う。
- ・女子学生間の関係が良好に見える。



図 6 白衣を着て色素分離実験



図 7 マンツーマンではんだ付けのコーチ

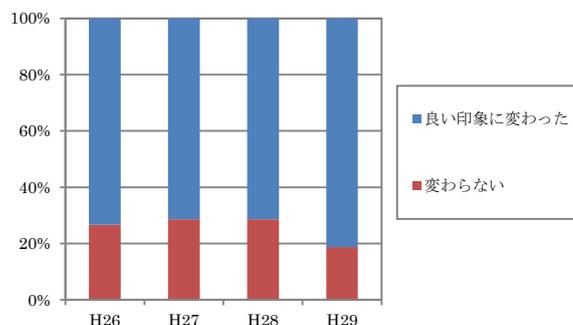


図 8 高専の印象が変わりましたか？

2.4 高専女子百科 Jr. 北九州高専まるわかり帳の編集

北九州高専では平成 25 年から高専女子百科 Jr. を作っているが、この会の発足前であったので、全学の女子学生に声を掛けて各学科から編集スタッフを募集し、それぞれの担当を決めて編集作業を進めた。平成 26 年度からは KCT ガールズ (後の Nit \heartsuit Kit ガールズ) が編集を担当するようになり、メンバーから編集リーダーを決め、他のスタッフをまとめて編集作業を行っている。

平成 25 年度は学校と 5 学科を紹介するページに加えて学校行事を紹介する「KCT 365DAYS」、部活動を紹介する「高専女子は部活も元気いっぱい」、女子寮の生活を紹介する「女子寮 Life」、中学生のための豆知識を集めた「北九州高専こぼれ話」で構成し、0C 時などに配布した (図 9 (左))¹⁾。

平成 26 年度版では次の年度の改組の告知ページと、「KCT ガールズってなに？」と「KCT ガールズ生の声インタビュー」で、女子学生の活動を紹介するページを増やした²⁾。

平成 27 年度版では新たな学科と 5 コースを紹介する内容に変更し、Nit \heartsuit Kit ガールズは「私たち、北九州高専かがやき隊！」と「Nit \heartsuit Kit ガールズインタビュー」のページで活動や女子学生の声を紹介した³⁾。

平成 28 年度は高専女子百科 Jr. の製作終了を受けて、北九州高専独自の広報冊子作りにも臨んだ。冊子タイトルは女子中学生に北九州高専の女子学生のことをより良く知ってもらうための冊子ということから、「北九州高専女子 まるわかり帳 Nit \heartsuit Kit Girls School Life」とした。おおまかな構成は前年度と変わらないものの、部活動紹介に女子部員の声を加えたり、制服の紹介に自分たちが着て写真を撮って載せたり、女子寮の部屋の写真や食事メニューを紹介するなど、学生目線によるこだわりで刷新を試みた (図 9 (右))⁴⁾。

0C や公開講座、高専祭での来校者への配布に加えて、出前授業や学校説明で近隣中学校へ出向く際にも持参して女子中学生への広報に役立っている。

平成 29 年度にはこの広報冊子に変えて、女子中学生向け広報動画の公開を企画し、Nit \heartsuit Kit ガールズが中心となって女子高専生の可能性を紹介した動画製作に協力しており、さらなる女子受検生の増加が期待されている。



図 9 高専女子百科 Jr. (左) まるわかり帳 (右)

2.5 高専女子フォーラムでのポスター発表

平成 27 年度に北九州で行われた「2015 年度 高専女子フォーラム in 九州沖縄」で、北九州高専は本科の 1 年生

から専攻科の 2 年生まで合わせて 12 名で 8 件の発表を行った (図 10)。発表のタイトルと発表した学生の学年を表 3 に記す。当日は九州沖縄地区の他校の女子高専生合わせて 42 件の発表があり、福岡のみならず、九州各地から中学生 64 名・保護者 62 名の参加があり、女子高専生の生き生きとした発表を聞き高専への理解を深めてもらえたようであった。

ポスター発表をするに当たり、低学年の学生たちはほとんどポスター発表の経験がないため、平成 25 年度と 26 年度の四国と中国の女子フォーラム会場に足を運んで他校の学生発表を見学して事前学習をした。また、平成 27 年の夏には九州沖縄地区女子高専生交流会において、他校の学生へのデモンストレーションと自分たちの練習を兼ねて、ポスター発表を行った。学生たちは、発表の題材を決めて、構成を考え、発表内容を考察し、学内発表の場を経て本番の発表に臨んだ。

自分の言葉で、自分たちの成長を自信を持って発表している女子高専生を間近に見てもらうことは、中学生とその保護者に対しての最高の PR になったと思われる。アンケートの回答からいくつかを紹介する。

- ・学生さんがとても生き生きとしているのが良かった。
- ・対応が丁寧でした。高専についてまだまだ知りたいと思いました。
- ・内容も充実していてとてもよかったです。
- ・ディスカッション能力が素晴らしかったです。化学工学で生活を豊かにできることが分かり有意義な時間でした。
- ・年にこのように合同で数回開催して欲しい。
- ・今後も続けてほしいと思いました。全く知らない部分がよく分かりました。



図 10 高専女子フォーラムでの発表

表 3 高専女子フォーラムでの発表

発表タイトル	発表者学年	
生産デザイン工学科に入学して	1年	1年
はじめての高専	2年	2年
Step Up ～わたしたちの成長過程～	3年	3年
Nit \heartsuit Kit ガールズでかがやき隊 (たい)	4年	
私たち、機械系女子です!	4年	4年
女子寮生の研究生生活	5年	
6年間の成長 ～本科+専攻科～	専1	
確かな技術, 知識, 教養で世界とつながる	専2	

2.6 Face book による情報発信

Nit \heartsuit Kit ガールズを結成して間もなく、その活動を学校内外の多くの人たちに紹介することを目的として学校のホームページ (以下 HP) 内に Nit \heartsuit Kit ガールズの HP へのリンクを張ることを企画した。HP 担当となった学生は HP の作り方から勉強を始めて、内容や構成の検討、デザイン画や色の選択など、時間をかけて取りくんだ。しかし、頻繁に更新することのむずかしさなどから、HP での発信は断念し、代わりに facebook により情報発信をすることにし、昨年度よりいろいろな活動の前には案内を、活動後にはその報告をアップするなど、新鮮な情報発信に努めている (図 11)。

facebook による広報であれば多くの中学生にも気軽に見てもらえることから、これからの広報活動として継続してしっかり取り組んで行きたいと思う。



図 11 Face book のトップページ

3. その他の取り組み

3.1 OG 講演会・懇談会

不定期に学内の女子学生を対象として行っていた OG 講演会を遠方の中学生にもたくさん参加して聴いてもらえるように、平成 28 年度から夏の OC 内で行うこととし、内閣府男女共同参画局のリコチャレイメント⁵⁾としても登録をして取り組んでいる (図 12)。これは女子中学生への広報に加えて女子学生のキャリア支援という意味を持つ取り組みでもある。

平成 28 年度には大学に進学した先輩と企業に就職した先輩 2 名に講演して頂き、懇談会は 2 名を中心にした 2 名

グループに分かれて行った。平成 29 年度は専攻科から企業に就職した先輩 2 名に講演して頂き、そのまま懇談会も一緒に行った。社会人 10 年目のベテラン先輩と 3 年目の新人先輩で、新人先輩は KCT ガールズの初代リーダーを務めた先輩であった。

アンケートへの回答を見ると、中学生や保護者は女子高専生の卒業後の進路に興味を持って参加していることが分る (図 13)。アンケートへの回答からいくつかを紹介する。

- ・お話がとてもわかりやすく、いいので、高専のこと、また卒業後のことなどがよく分かりました。
- ・具体的な現状と高専で学んだことが、今、生かしていることなど興味深かったです。
- ・卒業生や在校生の女の子達が、とても生き生きと楽しそうに、自信を持って過ごしているように見えます。
- ・子供が将来のためにどんな勉強や努力をしないと行けないか、参考になったと思います。参加して大変良かったです。



図 12 OG 講演会の様子

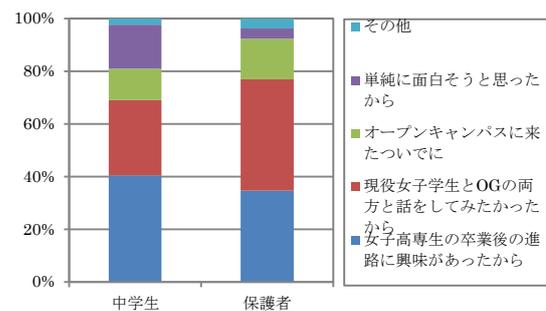


図 13 OG 講演会に参加しようと思った理由は?

3.2 新入生オリエンテーション

この取り組みは、入学式の前日に新入女子学生向けのオリエンテーションを女子学生が行うものである。これは学生の経験から提案された、まさに学生目線の企画である。

男子学生が圧倒的に多い高専への入学を控えて、不安な気持ちを少しでも解消し、笑顔で入学してもらえるようにとの思いで取り組んでいる。なるべくたくさんの人と打ち解けられるように様々なゲームやお菓子を食べながらおしゃべりをして、入学式前日の半日を過ごす。「入学してから心配が減りました。」「不安もあったけど、これからの

学校生活がとても楽しみです」と、好評を博している。H29 年度は入学女子学生の 7 割近い 39 名の参加があった (図 14)。



図 14 オリエンテーション後の笑顔の記念写真

3.3 九州沖縄地区女子学生交流会

平成 26 年度から九州沖縄地区の高専間で、女子学生の交流会を行っている。26 年度は熊本と北九州の 2 校の 15 名で久住の九大の研修センターに集い、お互いの学校や活動を紹介し、ゲームなどで親交を深めた。27 年度は 5 校の 21 名が阿蘇の研修センターに一泊し、高専女子フォーラムに向けての取り組みを交えながら交流をした。28 年度は 5 校の 20 名が佐賀の波戸岬研修センターに一泊し、女子学生のさらなる連携について話し合った (図 15)。29 年度は 3 校の 15 名が沖縄高専の寮に二泊して、企業見学などもしながら、より深い交流を行って来た。

交流会で他校のエネルギッシュな女子学生達と交流し、自分たちとは違う他校の取り組みを学び、自分たちの活動についても改めて見つめなおす貴重な機会になっていると思われる。その成果を今後の活動に生かしてくれることを期待している。



図 15 他高専の女子学生との交流

4. 今後に向けて

平成 29 年度に初めて小学校への出前授業に参加し、夏休み科学実験教室でドローンの操縦や紙を使ったものづくりなどを小学生に体験してもらった。また高専祭にも Nit@Kit ガールズとして初めて参加し、「手作りリケジョアク

セサリー」を作って女の子限定で配布した。高専祭には高専をよく知らない、高専への進学を考えているわけではない、小学生や中学生も来るので、そういう彼女たちをターゲットとした取り組みとして企画した。

高専に入学する女子学生の増加を目指すには、公開講座や OC など高専に興味を持ってこちらに出向いてくれる女子中学生を待っているだけでは十分ではない。広報活動の対象を広げるには、対象年齢を小学生まで下げることや、こちらから出向いて行き、理科に興味を持ってもらうきっかけ作りのような、より長い目で見た取り組みが必要であると考えている。Nit@Kit ガールズが、彼女たちだからこそできる取り組みに、これからも積極的に参画してくれることを期待する。そして、そのことで彼女たち自身が大きく成長することを願っている。

参考資料

- 1) 高専女子百科 Jr. 北九州高専版, 2013. 10. 16 発行
- 2) 高専女子百科 Jr. 北九州高専版 2014 年度版, 2014. 10. 8 発行
- 3) 高専女子百科 Jr. 北九州高専版 2015 年度版, 2015. 11. 13 発行
- 4) 北九州高専女子まるわかり帳, 2017. 3. 21 発行
- 5) <http://www.gender.go.jp/c-challenge/>

(2017 年 11 月 6 日 受理)